高等学校の修学旅行
最新リポート

# 社会や自然と向き合う中で

## 京都府立 京都すばる高等学校

南会津・東京　3泊4日
10年6月　実施

## 農家での体験を通して生活の息遣い感じとる

観光客でにぎわう京都市の中心から南に電車で約15分。田畑が広がる静かな地域にあるのが京都府立京都すばる高等学校（的場敏信校長）だ。同校は1985年開校の商業を専門とした「京都府立商業高校」が前身で、野球をはじめとする部活動も盛んだ。03年には商業と情報を専門的に学べる高校として新しいスタートを切り、09年からは、商業関連学科「会計科」「企画科」「ビジネス探求科」と情報関連の「情報科学科」の4学科態勢で教育を行っている。

同校はこれまで2年生の研修旅行をマレーシアや韓国など海外のほか、青森県などで行ってきたが、昨年は福島県南会津町と東京での研修を組み合わせたルートで実施した。「生徒に生産地と消費地の両方を見せたかったし、普段の生活ではできない体験を通して新しいビジネスチャンスを考えさせたかった」と研修旅行の狙いを語るのは、引率した田中利宏教諭。長閑な立地の同校だが、生徒の多くは京都、奈良の市街地に住み、農業との接点はほとんどない上、年配の人との交流も少ない。だからこそ普段とは違った環境や体験を求めて、「東北での農家民泊」にこだわった。

田中利宏教諭

研修は、6月22日からの3泊4日の日程で行った。栃木・日光東照宮での見学研修後、南会津町に入って2日間、研修の1番の柱である農家民泊を実施。3日目に東京に移ってもう1つの柱である班別研修を行い、4日目に京都に戻る旅程を取った。「あこがれもあってか、生徒は東京での班別研修への期待度が高く、南会津での農家民泊への興味は薄かった」と田中教諭は振り返る。

南会津で生徒たち約300人は、同町の田島、舘岩、伊南・南郷の3地域に散らばる75軒の協力農家に4、5人ずつ分かれ、初日の夕方の顔合わせから3日目の全体会までを過ごした。

受け入れをコーディネートしたみなみやま観光によると、同町では1千人程度の受け入れが可能だが1学年300人規模の学校を受け入れたのは初めて。受け入れ地域が広域にわたるため、町役場だけでなく各集落の区長にまで同校の滞在を周知徹底し、町全体ですべる高校の生徒を見守る態勢を整えたという。滞在中には道に迷った生徒が受け入れ農家以外の町民に送り届けてもらうことなどもあり、「生徒たちは、広範な町の人たちが皆お互いに顔や名前を知っていることに驚き、地域ネットワークの緊密さを体感した」（田中教諭）。

農家体験を行った2日目はあいにくの雨となったが、各受け入れ農家で耕運機を使った農作業やバラの鉢植え、障子張り、漆器の木地作りなどを行った。いずれの体験も生徒のためにわざわざ用意されたものではない。

「雨の日も普段通りそれぞれの家の生活、仕事がある。受け入れ農家でのありのままの生活や会話などから、生徒が生活の息遣いを感じ、初めて気付き、学ぶことがあると考えている」と湯田弘信・みなみやま観光総支配人。研修旅行の後、木地作り職人になりたいという生徒も現れるなど、「各家での体験、触れ合いを通し、生産することの魅力や年配の人の生活の知恵などを肌で感じ取ったようだ」と田中教諭は農家での時間の充実さを語る。

にぎやかな夕食

2日間の受け入れ農家での生活の最後には、3地域に分かれていた生徒と、各地域の受け入れ家庭の人が同町の中心にある大ホールに集合。生徒と受け入れ農家の人が地域ごとに一緒に着席し、同町とすばる高校の紹介DVDを鑑賞したり地域ごとの研修報告を行ったりしたほか、生徒有志によるダンスパフォーマンスなどを楽しんだ。

農作業体験

「3地域に分かれての研修だったので、最後に学校として感謝を伝えたいという思いから全体会を企画した」と田中教諭。受け入れ農家も含めるとかなりの大人数だったが、町の協力もあって大きなホールを利用することができ、生徒と受け入れ農家の人とが一体感を共有することが可能となった。

湯田総支配人は「各農家ともこれまでにたくさんの生徒を受け入れてきたが、他校とは違い、すばる高校が手づくりの本格的な交流会を企画してくれたことで、皆同校が強く印象に残っているようだ」と語る。

2泊とはいえほぼ実質1日半の農家民泊だったが、出発前に最も楽しみにしていた東京での研修を終え帰校した後も、生徒が一番の思い出として口にするのは南会津での体験ばかりだ。自分を家族のように受け入れ、接してくれた農家での体験は、生徒1人ひとりの心の中に大きな感動を残し、関西から離れた福島、会津の地を生徒にとって身近なものにした。会津の農作物がどのように生産され、流通しているのかも目の当たりにし、安い外国産の野菜と高い国内産の野菜の市場での競争力の現実や、高齢者が担う国内農業の現状も知った。

同校では旅行後の事後指導に大きな時間は割いていない。それは「研修旅行での記憶が1番の学びだから」（田中教諭）。生徒と受け入れ農家の間では、野菜や手紙のやり取りが続き、結びつきを深めている。研修旅行で学んだことは、これからビジネスの世界に向かっていく同校の生徒にとって確実に大きな糧となるに違いない。

いまでは珍しい障子の張り替えにも挑戦

農家で小型耕運機の操作を体験する

## 金蘭会高校

ハワイ　3泊5日
10年12月　実施

## 自分の目で見て、触れ一生の土台となる体験

金蘭会高校（藤林富郎学校長）は大阪市北区にある女子高で、明治時代の府立高等女学校の同窓会・金蘭会が「女性にもっと学びのチャンスを」と、皆で力を合わせて創ったのが始まり」と藤林学校長。100年を超える私立の伝統校なのだ。全校生徒数は687人。2年生の教育旅行先をハワイにしたのは04年から。それまでは沖縄や長崎に行っていた。ハワイは知名度も高く、日本人も多いが、決め手となったのは治安面の良さだ。また、日ごろ学んでいる英語を生かせ、いざという時は日本語も比較的通じること。そして平和学習ができ、親日的で現地の人たちとの交流が容易である――という点がポイントになった。

藤林富郎学校長

「沖縄に行ったことがある生徒が増えてきたことも変更の理由の1つ。保護者の皆さんからは、『新婚旅行で行ったことがあり、ハワイなら安心』という声もいただいた」と藤林学校長。

女生徒だけに安全面にも気を配る。ましてや海外。不測の事態に備えるため、現地に支店を持つ旅行業者との緊密な連携はもちろん、添乗員も女性にしてもらっている。デリケートな健康面にも対応できるよう養護教諭も同行。「長旅で時差も大きい旅行なので、事前に健康面での注意は念には念を入れている」と抜かりない。

今回のハワイ教育旅行は昨年12月4～8日に実施、約140人の生徒が参加した。生徒の多くは海外旅行が初めてだったようで、楽しみにしていたのが手にとるように分かったという。男女各4人の教諭が引率した。

折り紙を教える女生徒

ウクレレを体験

ハワイでのハイライトは小学校を訪問した異文化交流だが、各地でさまざまな出会いがあった。

気になる旅費だが、約17万円で、別に小遣いとして3万円までの持参を認めた。「沖縄でも十数万円かかっていたので、そう大きな負担ではないと見ている。旅行会社については入札でJTBに決めたが、以前からの実績も勘案した。

パールハーバーの見学、ビショップミュージアムでのレイ作りやフラダンス体験、敷地面積490万坪という広大なクアラロア牧場やシークレットアイランドでのアクティビティ。アクティビティについては映画村ツアーや乗馬、4輪バギーの試乗のほか、ビーチバレーやカヤック、シュノーケリング体験など充実した内容だ。

最大のイベントが3日目（6日）の異文化交流・小学校訪問。訪問先はマウカラニ小で初訪問となる。歓迎会でのソーラン節披露の後、日本から持参した道具（折り紙やカルタ、あやとりなど）を使って、それぞれ班に分かれて交流開始。

最初は言葉が通じず、子どもたちとのコミュニケーションもなかなかとれなかったが、次第に打ち解け、身ぶり手ぶりを交えての笑顔での交歓となった。

生徒からは「めっちゃ楽しかった」「英語がもっと話せたら」「時間が短い」という意見があり、中には「学校の先生になりたい」と教師冥利に尽きることを言う生徒もいたという。一部、「食事が合わない」などの声もあったが、「充実した旅行だった」「いい体験ができた」などの感想が圧倒的に多く、有意義な旅行となった。

なぜ国内でなく、海外なのか。藤林学校長はこう語る。

「義務教育の土台のもと、現代社会や世界のありようについて、より深い知識と理解力を獲得、一生の土台となる進路を選択し、社会に役立つ女性になるといった目標を持って教育している。高校の教育旅行は実際に自分の目で見て、触れて、感じる機会として、現代社会、その土台となっている歴史、そこに生きる人々への理解の貴重な機会ととらえている。また、将来なりたい自分を見つけるチャンスとも考えている」と教育旅行に対する考え方を示す。

その上で「距離や言葉と文化の違い、といった面で、海外は魅力的だ。生徒たちはそれまで学んできた英語について、さらに学習意欲を高め、特に現地の子どもたちとの交流でハワイの熱烈なファンにもなる。そういう意味で貴重な教育機会であり、今後も継続する方針だ」と強調する。

ただ、「時差、フライトの長さ、費用といった面で他の訪問先も検討した。


映画村の体験学習
本物と自然と昔にこだわる

清水焼絵付け体験 ＜【素焼】陶芸作家の岡本和芳さんの指導により、生地に絵付けをしていただきます。【京焼】白色系に焼き上げた器やグラスに３色のカラーを使って絵付けをしていただきます。
ドラマ映像講座　シナリオ(台本)を教材にコンテづくりを解説。次にそのコンテをもとに撮影したサンプル映像をご覧いただいて、ドラマの映像づくりのひみつを学んでいただきます。
殺陣（たて）講座　東映京都撮影所の殺陣師が立ち回りの形をお教えします。もちろん安全性は十分配慮しています。木刀を使って時代劇を体験してください。
京扇子・京うちわ手描き体験　舞踊や茶道にも欠かせない扇子やうちわは京都の伝統産業のひとつです。専門家の指導のもとにオリジナルの絵柄を描いて楽しんでください。
万華鏡手づくり体験　素朴な風合いの「万華鏡」づくりを、創業明治２６年の老舗和紙工房とのコラボレーションにより実現！色とりどりの千代紙を選んでオリジナルの「万華鏡」づくりを制作体験いただけます。
きもの着付け体験　京都は西陣織などの和装産業が盛んな都市です。きもの姿で映画村の江戸の町を歩いてみませんか。着付けのスタイリストがお手伝いいたします。
本格的時代劇扮装体験　メイク、結髪、着付けまで東映のベテラン専門家がお手伝いし、映画やテレビに出演するスターと同じ本格的な時代劇扮装をお楽しみいただけます。
※体験学習は全て有料・要予約となります。

体験学習のパンフレット・DVDのご請求、お問い合わせ、お申し込みはこちらまで!
TOEI KYOTO STUDIO PARK
東映太秦映画村
http://www.toei-eigamura.com
〒616-8586　京都市右京区太秦東蜂岡町10番地
お問い合わせ ✆075-864-7716　催し物ガイド ✆075-864-7788
営業時間 /9:00～17:00（12月～2月は9:30～16:00）
9:00～18:00（3月15日～9月15日の土・日・祝）　休村日 /2012年1月13日～17日



年間2800校以上にご来県いただいている
信州・長野県への学習旅行は

「長野県学習旅行誘致推進協議会」は、信州・長野県観光協会内に事務局を置き、国内外を問わず、長野県への学習旅行のご案内をさせていただいております。下記まで資料請求等お問合せをお待ちしております。

お問合せ・資料請求先
長野県学習旅行誘致推進協議会 事務局
TEL:026-238-9670　FAX:026-232-3220
E-mail:gakushu@nagano-tabi.net
http://www.naganoken-gakushuryoko.net
〒380-8570（住所不要です）
長野県庁東庁舎2階 信州・長野県観光協会内

上記冊子「先生のための手引き書」（ワークシートつき、全32頁）を無料にて差し上げています。